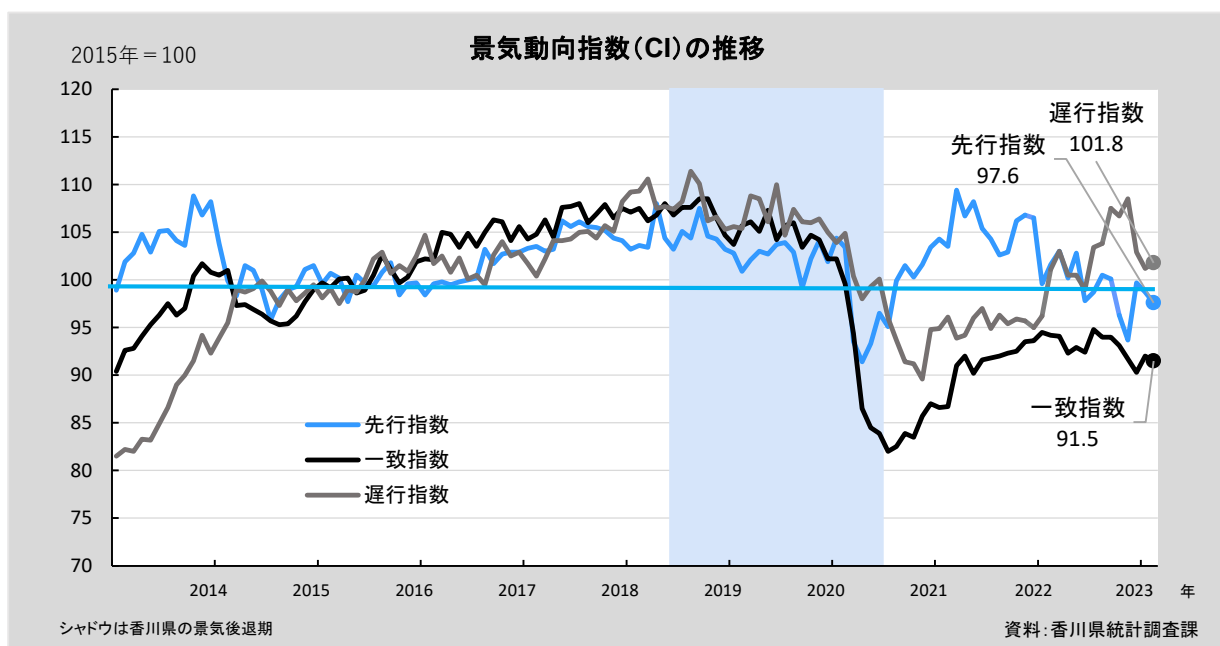


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	減少している。
生産活動	弱い動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 2カ月ぶり下降



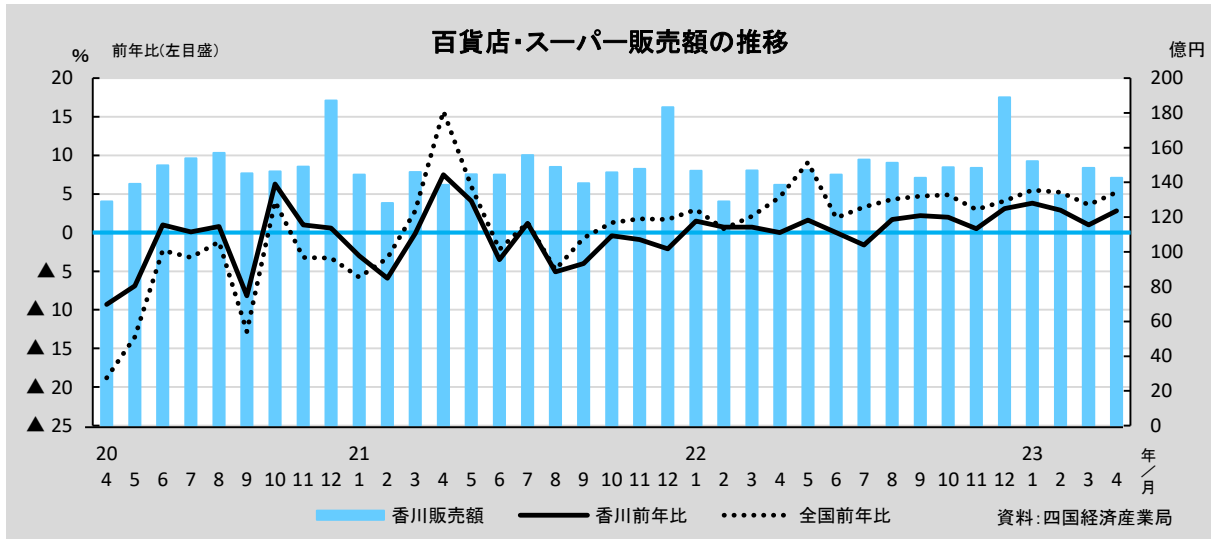
景気の現状をみると、3月のCI一致指数は91.5（前月比▲0.5ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI先行指数は97.6（同▲1.1ポイント）と2カ月連続で下降。CI遅行指数は101.8（同+0.6ポイント）と3カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、雇用保険受給者実人員、百貨店・スーパー既存店販売額等が下降に寄与したことにより、前月から0.5ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.97	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.84	1 常用雇用指数	▲ 1.20
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.52	2 有効求人倍率	0.18	2 有効求職者数	▲ 0.35
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.57	3 所定外労働時間指数	▲ 0.06	3 消費者物価指数	▲ 0.03
	4 生産財生産指数	▲ 0.33	4 鉱工業生産指数	0.06	4 家計消費支出	0.63
	5 新設住宅着工戸数	0.22	5 鉱工業出荷指数	0.27	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.32
	6 金融機関貸出残高	▲ 1.06	6 建築着工床面積	▲ 0.04	6 法人事業税調定額	0.58
	7 消費者態度指数	1.32	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.14	7 第3次産業活動指数	1.46

●百貨店・スーパー販売額

9 カ月連続増加 ↑

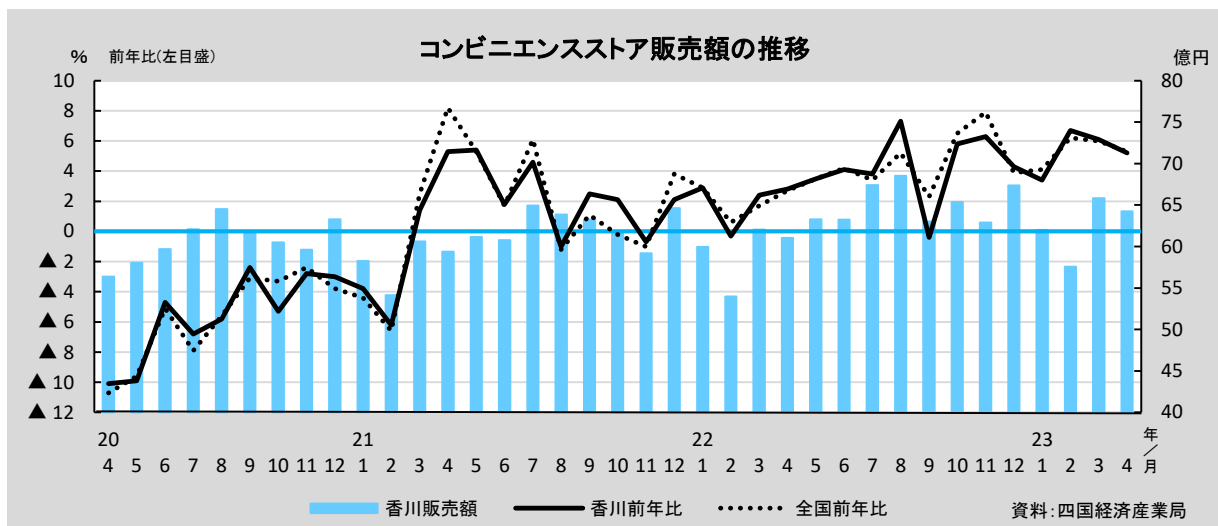


2023/4月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	105,313	65,546	1,043,158	1,671	4,278	62,938	142,927	438	1,426,269
前年同月比(%)	3.6	18.0	1.7	24.4	4.0	148.3	▲ 17.4	27.0	2.8

4月の百貨店・スーパー全店(83店)の販売額は142.6億円で、前年同月比+2.8%と9カ月連続で増加した。行楽需要や新生活関連に動きがみられ、「衣料品」は同+3.6%、「身の回り品」は同+18.0%、「飲食料品」は同+1.7%となった。

●コンビニエンスストア販売額

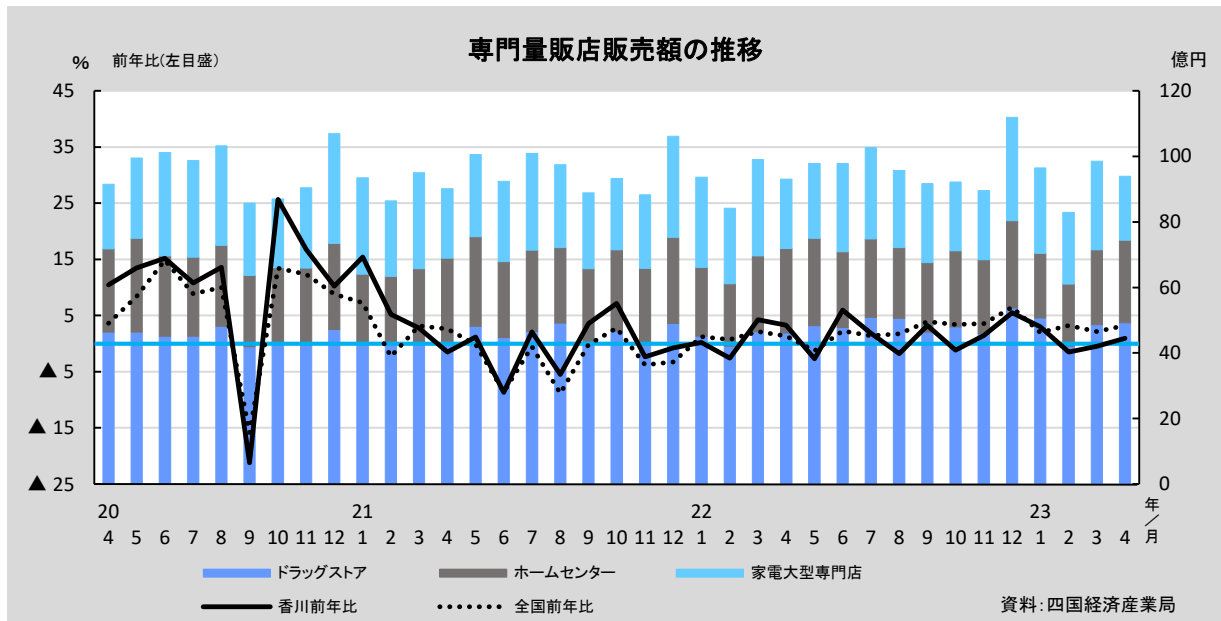
7 カ月連続増加 ↑



4月のコンビニエンスストア全店(403店)の販売額は64.2億円で、前年同月比+5.2%となった。入店客数の増加、販売促進効果、商品価格の上昇などで販売額が増加したほか、カウンターコーヒーやフライヤー商品などが好調で、7カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

3 カ月ぶり増加 ↑

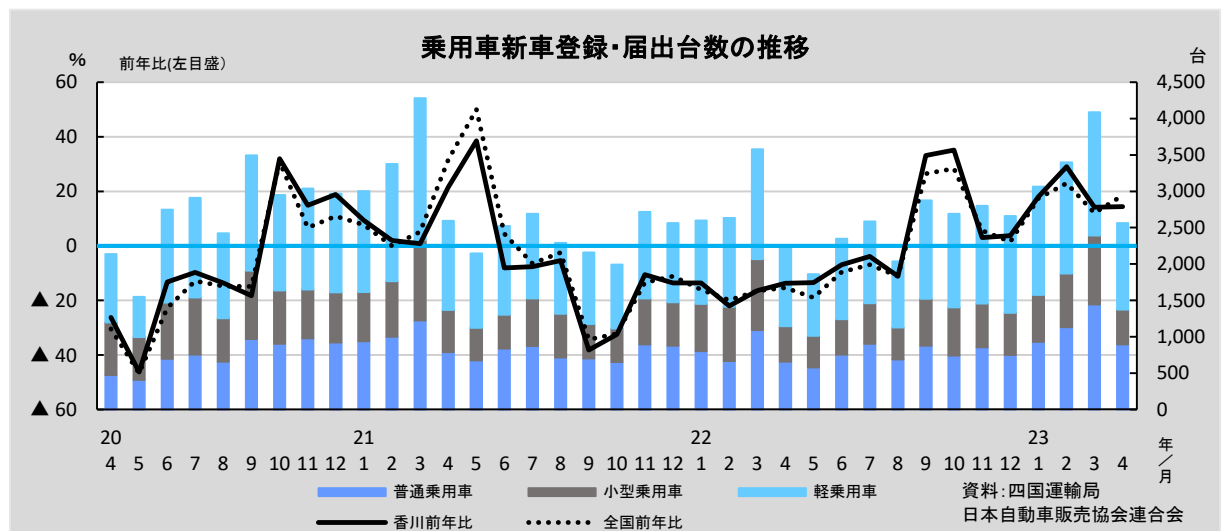


4月の専門量販店全店（212店）の販売額は93.9億円で、前年同月比+0.9%と3カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、テレビや生活家電の動きが悪く、販売額は19.5億円で前年同月比▲8.0%、**ドラッグストア**（138店）は、冷凍食品などの食品や調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は49.2億円で同+6.9%となった。**ホームセンター**（45店）は、入店客数の減少や、値上げに伴う節約志向で日用消耗品などが不振で、販売額25.2億円で同▲2.3%となった。

●乗用車新車販売台数

8 カ月連続増加 ↑



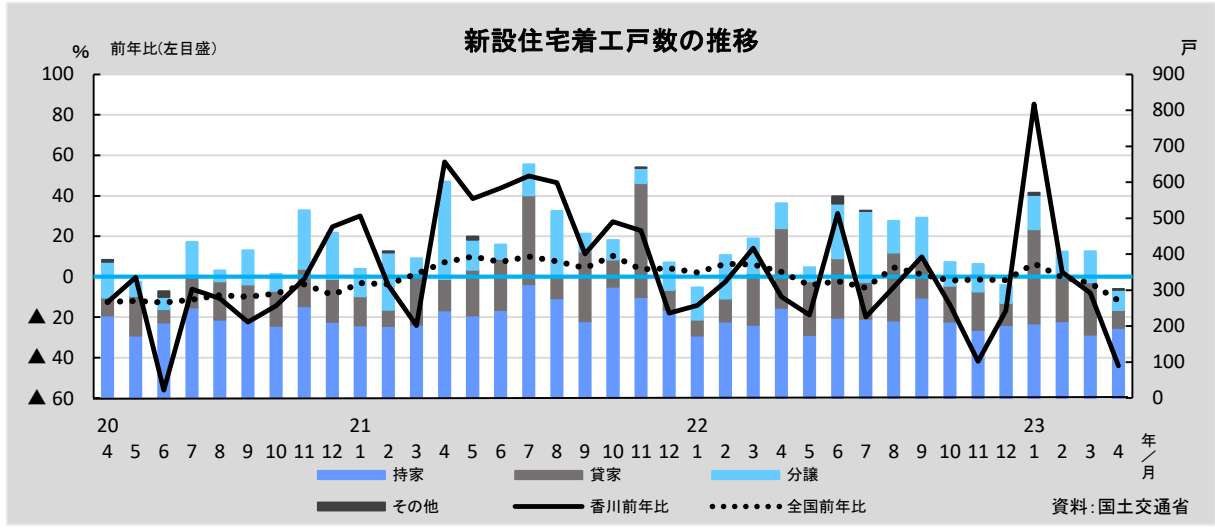
4月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,563台で、半導体不足や部品調達難が深刻だった前年の反動増で、前年同月比+14.4%と8カ月連続で増加した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+36.0%、小型乗用車で同▲1.6%、軽乗用車で同+8.6%となった。

住宅投資 低調に推移している

●新設住宅着工

2 カ月連続減少 ↓

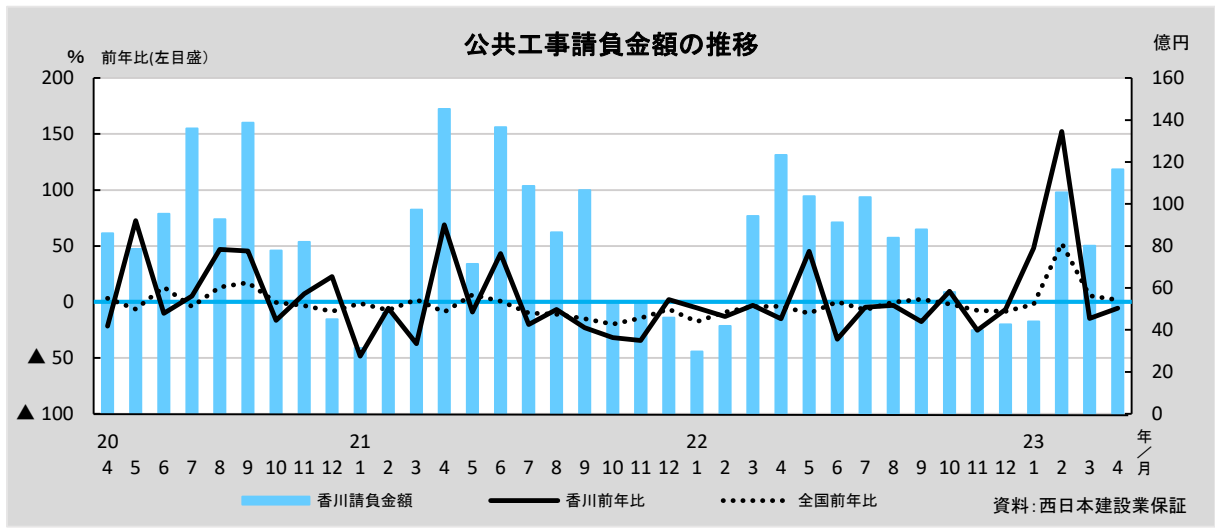


4月の新設住宅着工戸数は303戸で、前年同月比▲44.1%と2カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲22.3%、**貸家**で同▲77.4%、**分譲住宅**で同▲20.0%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額

2 カ月連続減少 ↓



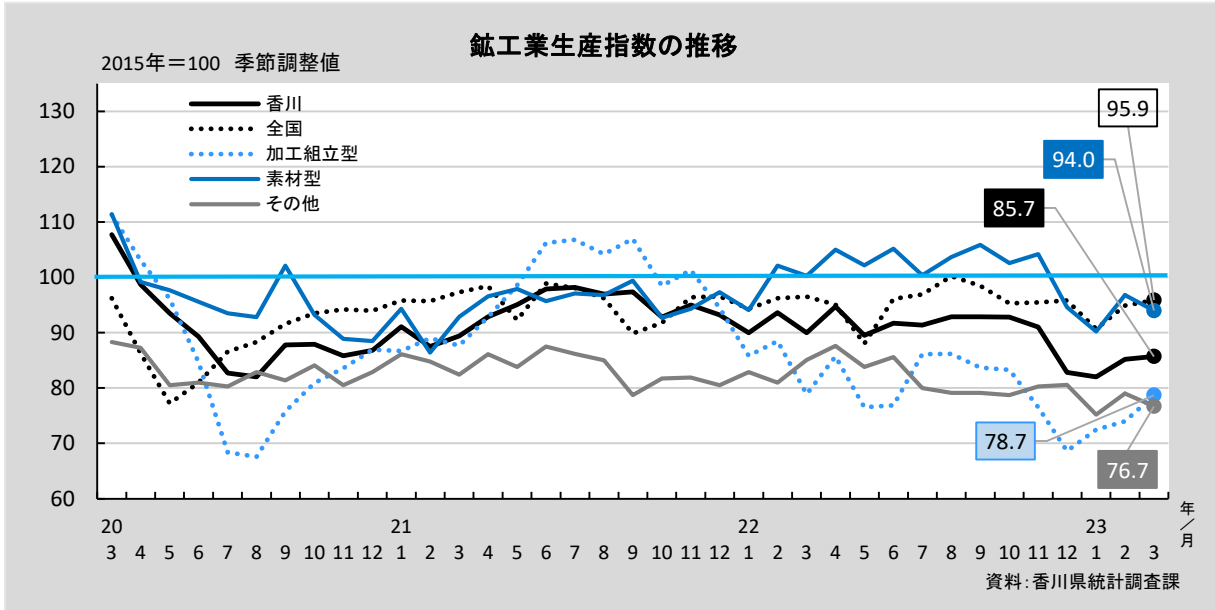
4月の公共工事請負金額は116.5億円で、前年同月比▲5.6%と2カ月連続で減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲21.1%、**県**で同▲46.3%、**市町**で同+4.1%となった。

生産活動

弱い動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2カ月連続上昇 ↑



3月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は85.7（前月85.2）となり、2カ月連続で上昇した。

業種別では、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は前月比+21.4%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同+8.5%と上昇した。

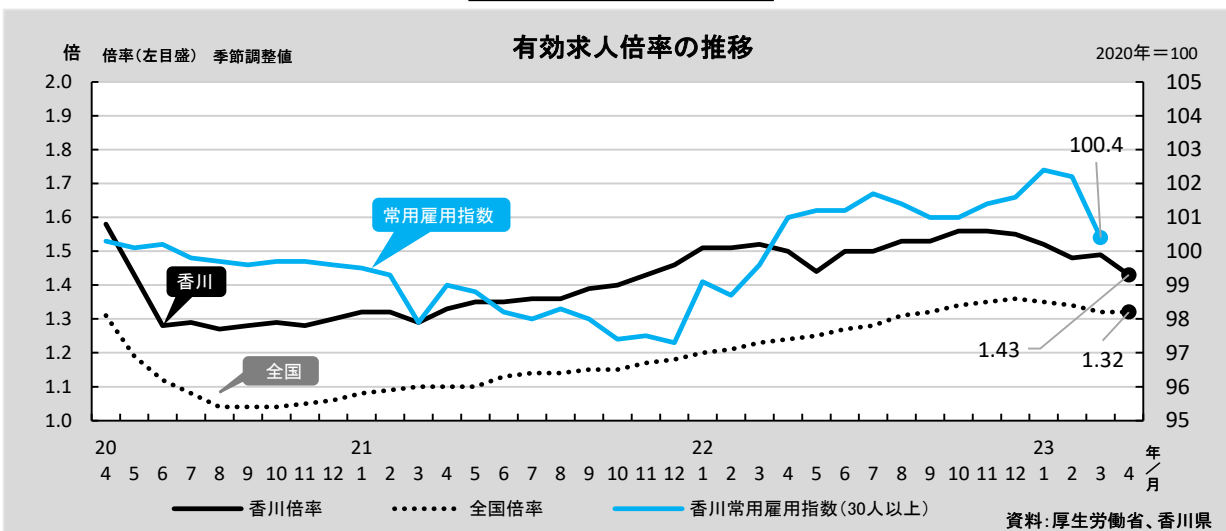
一方、素材型の非鉄金属工業（電気銅・電気金など）は同▲10.3%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2カ月ぶり低下 ↓



4月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.43倍（全国15位）と前月より0.06ポイント低下した。

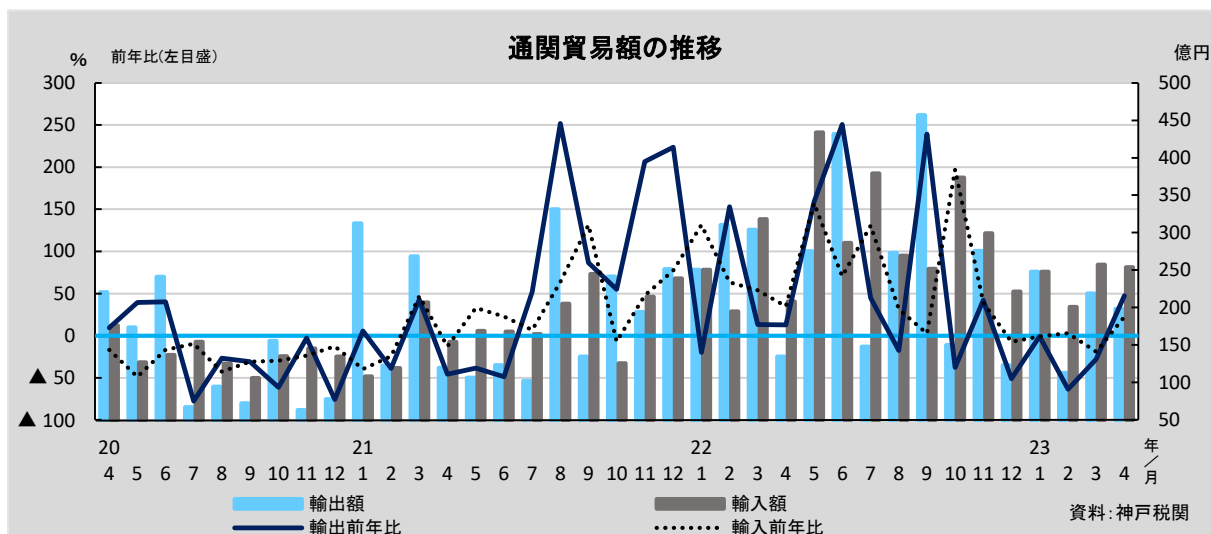
新規求人（原数値：前年同月比）は、鉱業・採石業・砂利採取業、公務・その他、農・林・漁業、学術研究・専門・技術サービス業等で減少し、全体で▲7.1%と2カ月ぶりに減少した。

3月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、100.4となり、前年同月比は13カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	1.77
事務従事者	0.54
販売従事者	2.50
サービス職業従事者	2.93
生産工程従事者	2.38
輸送・機械運転従事者	2.25
建設・採掘従事者	6.53
運搬・清掃・包装等従事者	1.10

貿易

輸出、輸入ともに増加している



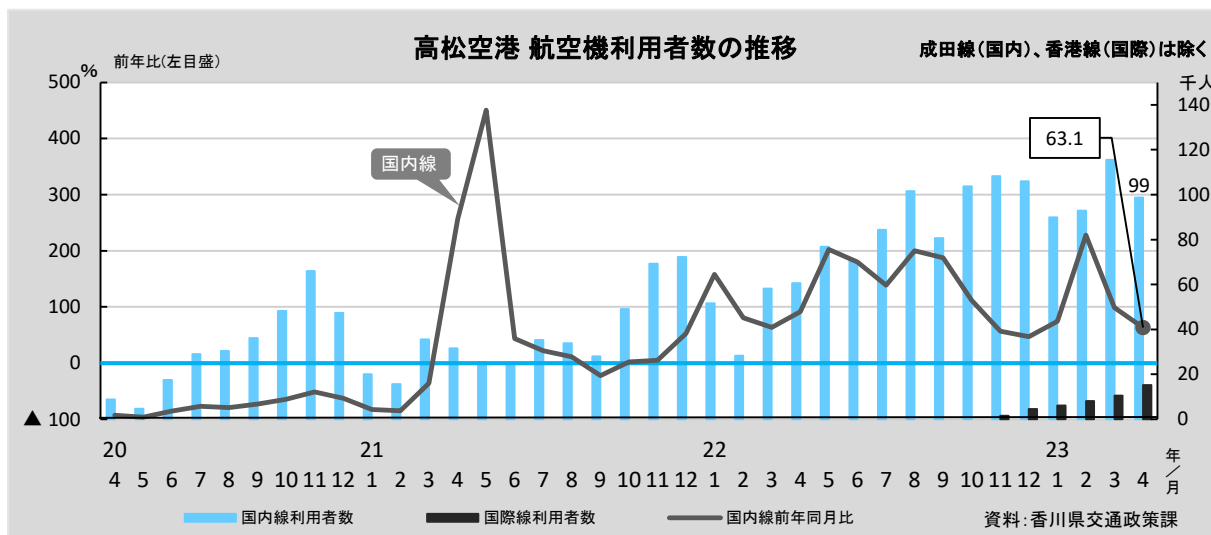
4月の輸出額は前年同月比+47.2%の198.4億円、輸入額は同+22.1%の254.0億円となり、差し引き55.6億円の入超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比+109.0%の50億円となった。輸入は、石炭輸入額が同+33.6%の136億円となった。

交通

国内線は19カ月連続増加、国際線は順調に増加

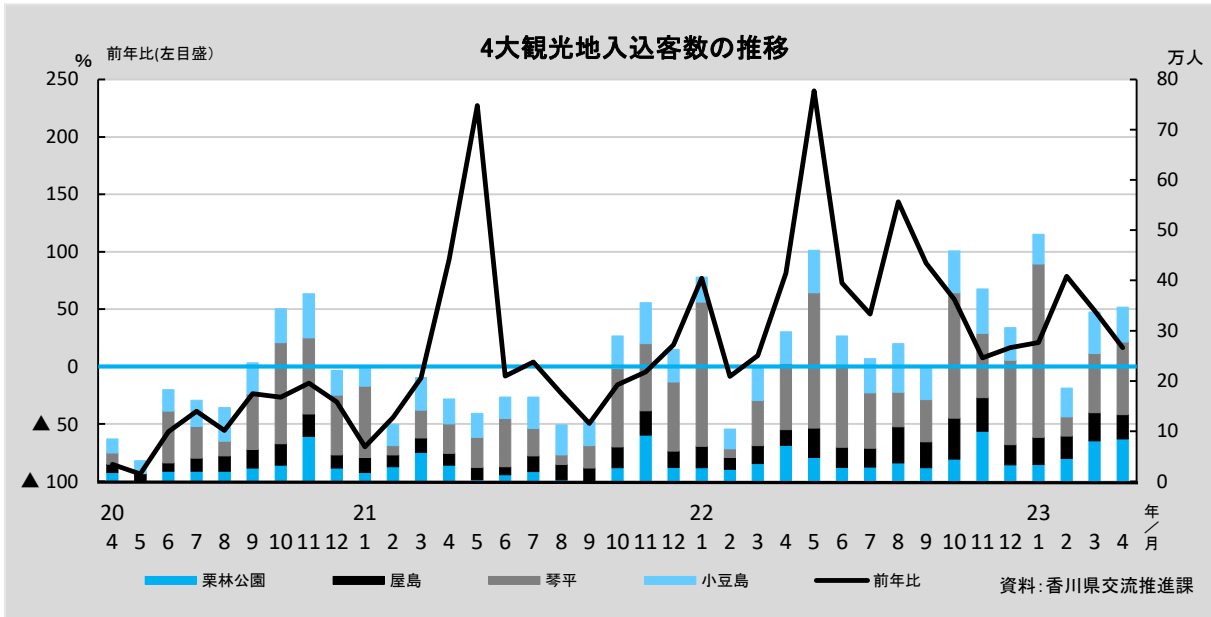
●高松空港旅客輸送実績



4月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が98,724人(前年同月比+63.1%)となり、19カ月連続で増加した。羽田線は85,831人(同+50.1%)、那覇線は12,893人(同+288.1%)となった。

国際線(ソウル・台北線)は15,158人となり、国際線が再開して6カ月順調に増加している。ソウル線は9,954人、台北線は5,204人となった。

●主要観光地入込客数

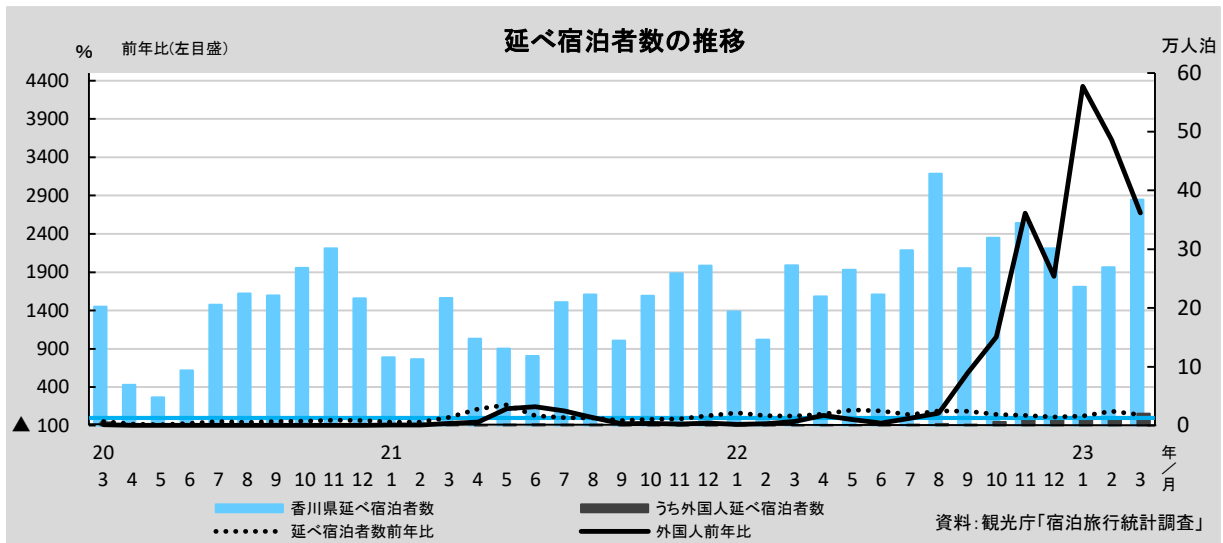


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
4月(人)	前年同月比	84,761	48,402	144,000	69,895	347,058
		18.1%	56.0%	9.1%	11.4%	16.6%
1~4月累計(人)		244,918	202,759	645,000	269,436	1,362,113
		54.5%	52.4%	22.6%	23.7%	31.6%

4月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+16.6%と14カ月連続で増加した。全国旅行支援の継続や、GWの旅行需要効果で、栗林公園は前年同月比+18.1%、屋島は同+56.0%、琴平は同+9.1%、小豆島は同+11.4%と全てが前年を上回った。

1~4月の累計では前年比+31.6%となった。

●延べ宿泊者数



3月の延べ宿泊者数は384,700人で、前年同月比+41.1%と16カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲3.2%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は19,970人となり、前年同月比+2673.6%と8カ月連続で増加した。2019年同月比では▲68.3%となった。